

八重山地域におけるオニヒトデ対策の経緯

1. アンケート調査（2002 年秋）

2001 年の広域モニタリング調査より、石西礁湖内でオニヒトデが増加している傾向が明らかになったことから、2002 年秋に漁業者及びダイビング業者を中心にオニヒトデの目撃に関するアンケート調査を実施したところ、多数の方が石西礁湖内でオニヒトデが増加していると答えた。

2. 八重山ダイビング協会と環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターによるオニヒトデ駆除調査（2003 年 1 月 17 日）

ダイビング事業者の目撃情報により、竹富島南のダイビングポイントにおいて緊急オニヒトデ駆除調査を実施。その結果 171 匹が発見駆除され、大発生の可能性が示唆された。

3. 第 1 回オニヒトデ対策連絡会議（2003 年 1 月 24 日）

八重山地域におけるオニヒトデの発生状況について情報を共有するため連絡会議を開催。1.のアンケート調査の結果、広域モニタリング調査の結果、沖縄県における対策状況などを報告し、意見交換を行った。参加者 47 名。

参加機関：八重山漁業協同組合、八重山ダイビング協会、沖縄県、沖縄県八重山支庁、石垣市、竹富町、西海区水産研究所、県水産試験場八重山支場、沖縄県環境科学センター、WWF ジャパンサンゴ礁研究センター、日本ウミガメ協議会、（有）海游、八重山環境ネットワーク（石垣海上保安部）

事務局：環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

4. 第 1 回オニヒトデモニタリング調査（2003 年 2 月 6 日～3 月 26 日）

アンケート結果を踏まえ、平成 14 年度海中公園地区等保全事業でオニヒトデモニタリング調査を実施した。結果として、黒島北沖～ハナレノユニグァージー、旧新里航路、スーハヤグチ、マルグー、ユイサーグチイノー、ウーロマガイイノー、テンマカケジュ（ユイサーグチシンクチ）名蔵湾で目撃数が 2 を超えた。調査中に 283 匹駆除。

5. 第 1 回駆除事業（2003 年 4 月 10 日～4 月 30 日）

4. により多くのオニヒトデが目撃された海域のうち以下の海域において、平成 14 年度海中公園地区等保全事業と沖縄県の予算で駆除事業を実施。駆除総数は 1164 匹。

| 駆除地域 | 駆除数 |
|------------------|-----|
| 黒島北沖～ハナレノユニグァージー | 6 匹 |

| | |
|-----------|-----------|
| 旧新里航路 | 6 8 匹 |
| スーハヤグチ | 5 9 匹 |
| マルグー | 4 5 2 匹 |
| 竹富島南 | 2 3 9 匹 |
| ユイサーグチイノー | 7 9 匹 |
| ウーロマガイイノー | 2 匹 |
| 名蔵湾 | 1 1 2 匹 |
| 合計 | 1 0 1 7 匹 |

その他ボランティアで 1 2 匹を駆除

6 . 第 2 回オニヒトデ対策連絡会議（2003 年 7 月 4 日）

オニヒトデモニタリング調査と駆除事業の成果を報告するとともに、今後の方針として、個体数が多い海域が特定されていることから、大発生を予防する観点での駆除を実施するとともに、大発生に至った場合の最重要保全区域を八重山地域においても設定することとした。また、沖縄県のオニヒトデ対策会議に八重山地域の代表を送ることに決まった。参加者 3 4 名。

7 . 第 2 回オニヒトデモニタリング調査（2003 年 7 月 28 日～8 月 17 日）

自然再生推進計画調査でオニヒトデモニタリング調査を実施。前回駆除を実施した 8 海域のうち、マルグーと竹富島を除く海域で目撃数が減少したが、これまで未調査海域であったカナラグチ、テンマカケジュ付近で新たにオニヒトデが多い海域が確認された。調査中に 286 匹駆除。

8 . 第 2 回駆除事業（2003 年 10 月 2 日～10 月 6 日）

モニタリング調査の結果に基づき、マルグー、ユイサーグチ、テンマカケジュ、カナラグチでの駆除を自然再生推進計画調査の一環として実施。同時期に八重山ダイビング協会により竹富島南で 8 2 匹が駆除された。

| 駆除地域 | 駆除数 |
|-----------|---------|
| マルグー | 1 0 0 匹 |
| ユイサーグチイノー | 1 7 匹 |
| テンマカケジュ | 1 1 9 匹 |
| カナラグチ | 3 3 4 匹 |
| 合計 | 5 7 0 匹 |

9 . 第 3 回オニヒトデ対策連絡会議（2003 年 10 月 17 日）

第 2 回オニヒトデモニタリング調査と第 2 回駆除事業の成果を報告するとともに、現段階は大発生を予防するための駆除を継続的に続けることを確認し、別添の八重山地区におけるオニヒトデ対策の方針を了承。次回までに関係機関において最重要保全区域の候補を選定することで合意が得られた。

また、沖縄県主催のオニヒトデ対策連絡会議には、当面事務局が代表として参加すること

で合意が得られた。

なお、八重山環境ネットワークよりボランティアによる駆除の実施について呼びかけがあった。参加者32名。

10. 広域モニタリング調査(2003年10月10日～31日)

前年度調査結果と比較して、目撃地点数で約2倍、目撃個体数で約4倍に増加し、増加傾向が明らかになった。モニタリング調査中に136匹を駆除。

11. 沖縄県主催平成15年度第2回オニヒトデ対策会議(2003年10月20日)

標記会議に参加し、八重山におけるオニヒトデ対策の現状を報告

12. 八重山環境ネットワークによる駆除活動(2003年10月22日)

八重山環境ネットワークの呼びかけにより漁業者、ダイビング事業者、海上保安庁、環境省、八重山支庁、石垣市、竹富町職員らが参加し、竹富島南で171匹を駆除。駆除海域は、広域モニタリングの結果を基に選定された。

13. オニヒトデ発生状況調査(2004年2月3日～2月11日)

自然再生推進計画調査の一環として、オニヒトデの個体数変化を把握する目的で、これまでに駆除事業を実施した海域において、モニタリング調査を実施するとともにオニヒトデを捕獲し、個体数と個体サイズの調査を行った。

| 駆除地域 | 駆除数 |
|--------|-------|
| マルゲー | 280匹 |
| 竹富島南 | 545匹 |
| ユイサーグチ | 36匹 |
| カナラグチ | 404匹 |
| スーハヤグチ | 102匹 |
| 合計 | 1367匹 |

14. 八重山漁協による駆除活動(2004年2月12日)

オニヒトデ発生状況調査に従事し、現在の状況に危機感を抱いた八重山漁協組合員の有志によって竹富島南で駆除作業が実施され177匹を駆除。

15. 第4回オニヒトデ対策連絡会議(2004年3月12日)

オニヒトデ発生状況調査の結果、竹富島南を中心に個体数が急増中で駆除が困難になりつつある状況が報告され、オニヒトデ最終防衛区域である重要保全地区の選定について議論がおこなわれた。

八重山漁協及び環境省が候補地を図示して重要保全地区の候補地とした。今後、自然再生専門委員会など専門家の意見を聞きながら絞り込みを進める方針を確認。

ダイビング協会は、ダイビングポイントについて日常的にモニタリングと駆除を実施することとなった。参加者26名。